

「1950年代教育史」研究部会（第36回）

日時：2019年5月24日（金）13:00～15:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員

吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

欠席：大島宏兼任研究員

内容：（1）米田研究員報告：紀要の担当分、章構成について

◆担当の章：勤評「神奈川方式」の成立と神奈川県教育委員会

- ・「はじめに」：神奈川県で、長期間の話し合いが行われ、合意によって他の都府県とは性格や趣旨を異にする勤評規則が制定された事情を明らかにすることを課題とする

・「第1節 自民党と内山県知事の勤評「神奈川方式」に対する姿勢」：

1. 神奈川県の自民党

当時の選挙結果・他都府県の勤評に対する動きを新聞記事から拾う

2. 内山岩太郎県知事と教育委員

内山岩太郎（元外交官）：神奈川という場所柄、渉外能力が必要とされた。新聞等の発言を見ると組合の反対を押し切って教育長協議会の「試案」を強行するようには考えておらず、教育委員に強いてもいない

（2）須田研究員報告：1950年代における国立大学附属教育研究所の活動実態-全国的な状況分析と静岡大学の事例-

- ・前回に続き静岡大学教育研究所について、国立大学附属教育研究所の中における位置を捉える作業、『文化と教育』の存在意義について分析
- ・国立大学附属教育研究所で定期刊行物を発行していたのは26例（1950年代の創刊が多い）。「新教育」「へき地教育」「教員養成」等のテーマ→静大『文化と教育』は典型例といえる
- ・同時期の静岡県内の教育出版物：『教育静岡』、『静岡の教育』、静岡県立教育研究所『所報』『静岡県教育研究』など
- ・『文化と教育』：創刊号～第14巻3号（通号153号）〈1950年1月-1963年3月〉1963年4月から『静岡の教育』と統合して『教師の広場』となり現在に至る
→アカデミズムをベースとした記事を貫こうとするも現場で読まれず、現場と結びつこうとする指向性を打ち出すと、『静岡の教育』との差異や大学で取り組む意義が問われた。1958年4-10月の休刊時（99号と100号の間）に静岡大学附属教育研究所は解体

（3）紀要刊行の予定

- ・2020年夏に原稿を完成し、2021年3月までに紀要刊行を目指す
- ・計画に向けて、各自論文の章構成（目次案）を報告担当時に順番に発表する

- ・次回研究会は、2019年6月28日(金)13:00～。大島研究員、鳥居研究員
- ・次回以降のスケジュール 2019年8月2日(金)13:00～
2019年9月20日(金)13:00～